

令和4年度
第1回三島市在宅医療介護連携推進会議 会議録

1 開催日時

令和4年6月30日（木） 午後1時～午後2時

2 開催場所

三島市役所 本館3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

竹中委員（議長）、杉山（達）委員（副議長）、鈴木（孝）委員、
堀口委員、眞野委員、酒井委員、渡部委員、石代委員、
齊藤委員、清水委員、増田委員、笠原委員、杉山（恵）委員、
戸塚委員、豊田委員、小嶋委員

(2) 事務局

<健康推進部>

臼井健康推進部長

<健康推進部 地域包括ケア推進課>

石井課長、伊藤地域包括支援係長、進士副主任保健師、福田副主任社会福祉士

<健康推進部 健康づくり課>

佐野課長

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

1人

6 会議の内容

(1) 依頼状交付

健康推進部長から、竹中委員に交付

(2) 議長選出

・委員の交代により議長不在となるが、副議長である杉山（達）委員より医師会選出である竹中委員を議長に推薦、決定

(3) 説明

事務局が、在宅医療・介護連携推進事業の概要を説明

(4) 議題

ア 令和3年度事業報告について

【事務局説明（要旨）】

(事務局)

○ 在宅医療介護連携推進会議

- ・医療・介護関係団体等の代表者で構成し、連携を推進する上での課題抽出と対応策を検討することを目的として、令和3年度は3回開催。
- ・1回目は前年の事業報告及び当該年度の計画の報告、入退院支援に係る課題についての意見交換を行った。
- ・2回目は地域ケア推進会議と同時開催で、入退院支援検討部会で検討している入院時情報提供シートについて検討を行った。
- ・3回目は新型コロナウイルスまん延防止のため書面での審議を行い、入院時情報提供についての報告、評価指標についての提案、データから見る医療・介護の現状について意見を賜った。

○ 入退院支援検討部会

- ・入院時における情報共有シートの作成及び連携に関するルール作りを行った。内容については、議題3として報告。

○ 情報共有支援会議

- ・令和4年2月にZoomによるオンラインでの会議を行った。シズケア*かけはしの活用や、シズケア*かけはし内のネットワークシステムである患者利用者情報共有システムについて、実際に利用し、意見交換を行った。

○ 多職種連携研修会

- ・令和4年1月にZoomウェビナーを用いてオンラインにて開催。介護保険でのリハビリテーションについて考えるというテーマで理学療法士と介護支援専門員によるトークセッションを行った。
リハビリについて理解が深まった、リハビリを依頼するときの考え方が分かったという介護支援専門員からの意見があった。

○ 普及啓発

- ・地域医療講座を3校で実施、令和3年度で市内の中学校を一巡した。
新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、全学年が集合しての開催はできなかったが1学年が体育館に集まり、残りの学年は各教室でタブレットや電子黒板を利用した聴講で実施。アンケートにより自分のこととして考えることができた、家族と話し合いたいと思ったなどの回答があり、看取りガイドやアドバンス・ケア・プランニングの普及にも繋がったと考えられる。
- ・地域住民向けの出前講座は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、様々な講座や教室が中止となる中、出前講座を2回開催、市民講座で看取りガイドの配布を実施。
- ・昨年度の推進会議で提案をうけ、広報みしまに特集記事を掲載し、周知を行った。

○ 三島市医療介護連携センター相談実績

(三島市医療介護連携センター 在宅医療コーディネーター)

- ・前年と比べ、相談件数は103件と増えており、相談者としては本人・家族からの相談が多かった。

広報みしまに掲載されてから、電話相談が10件ほどあった。

- ・本人・家族からの相談内容は、ガン末期で余命半年と宣告されたので自宅に連れて帰りたい、アルコール依存で施設入所をしている家族を連れて帰りたい、介護老人保健施設に入所している家族が帰りたいと言っているがどうしたらよいか、介護保険が利用できない年齢の方から介護保険外の施設を知りたいというものだった。
- ・次に相談の多い居宅介護支援事業所からは、自宅や施設で看取りたい方の相談が多かった。その他、医療的な内容について知りたい、受診の方法について、主治医はいるがどのように話せばよいかといった相談、言語聴覚士がいる訪問看護ステーションを教えてほしいなどといった内容があった。
- ・その他としては薬局からの相談や友人・知人からの相談だった。
- ・相談形態としては電話が多く、3/4を占めている。
- ・相談内容はすぐに解決できる内容ばかりではないが、傾聴や助言をし、担当窓口につなげたり、情報提供を行ったりしている。
- ・在宅主治医の依頼については、16件の相談中14件紹介、そのうち12件の在宅医療を開始した。

在宅での看取りをしたいと思った気持ちを尊重し、在宅医療に移行する手助けをしたいと思っているが、実際に自宅で介護するのは大変で、気持ちが変わった時にスムーズに次のところに移行できるような体制が大切だと感じる。

- ・最近では、自宅ではなく施設で看取りをしてもらいたいという相談で、訪問診療医を紹介してほしいという相談も受けている。

(事務局)

○ 三島市在宅医療・介護連携推進事業の取組状況

- ・令和3年度の事業の取組状況をまとめた。

【質疑・応答】

なし

イ 令和4年度事業計画（案）について

【事務局説明（要旨）】

(事務局) ※ 時間の都合により、一部の事業計画を取り上げて説明

- ・切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築を地域のめざす理想像としてPDCAサイクルに沿った取り組みへと事業のあり方が変更され、現状分析、課題抽出、施策立案、対応策の実施を行うことになっている。
- ・課題の週出と対応策の検討のため、在宅医療介護連携推進会議は本日を入れて2回開催予定。次回は10月5日(水)三島メディカルセンターでの開催予定。
- ・切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進についての現状分析や課題抽出、また医療介護関係者の情報共有の支援について対応策の実施として、入退院支援検討部会を3回開催し、退院場面での情報共有について検討をしていく予定。

- ・情報共有支援会議、多職種連携研修会、全体研修会についてはどのように開催し検討していくのか、コロナ禍の影響もふまえ、開催を検討していく。
- ・地域住民への普及啓発として、今年度も中学生の地域医療講座を実施。今年度から2巡目になり、2校で実施予定。地域住民への出前講座は随時実施し、看取りガイドやACPについて周知を行っていく予定。
現在、自治会や民生委員等の集まりの場に出向き、出前講座の周知を行っている。

【質疑・応答】

なし

ウ 入院時の情報提供について

【事務局説明（要旨）】

（事務局）

- ・令和3年度入退院支援検討部会にて検討し、推進会議でも意見を賜り作成した情報提供書。
- ・会議の中では個人情報の記載について伏せ字にしたほうが良いのではないかという意見もあり、検討を行った。事前に本人・家族に同意を得ているということ、医療機関での受領時の情報取り違えのリスク回避のため、基本情報については記載をすると部会で取りまとめた。他の部分については、実際に利用しながら、再度検討をしていく。
- ・実際の活用については、原則的には全員に送付する。
- ・以前行ったアンケートで、医療機関のどの部署に連絡をしたらよいかわからないとの回答もあり、市内の医療機関・市外でもやり取りの多い医療機関について一覧表を作成した。
- ・今後ホームページや三島市介護支援専門員協議会を通じ、介護支援専門員や医療機関に周知を行っていく予定。

【質疑・応答】

（議長）

- ・この情報提供書は、具体的にはいつごろから運用を開始するのか。

（事務局）

- ・この推進会議で最終確認を行い、これからの運用を考えている。
実際の利用については、以前から静岡県介護支援専門員協会のホームページに掲載されている入院情報提供書を各居宅介護支援事業所は利用しているが、可能な限り三島市で検討し作成したものを利用してもらえよう周知をしていく。
7月半ばに三島市介護支援専門員協議会の研修があるため、そこでの周知を考えている。

（委員：介護支援専門員）

- ・7月13日に研修があるためそこで一度案内を行い、9月に改めて詳細の説明

を行う予定。また、市のホームページだけではなく、三島市介護支援専門員連絡協議会もホームページを立ち上げたので、そこでも周知を行う予定。

(委員：薬剤師)

- ・6番の薬の情報について、足りない情報などあった場合、その患者がかかっている薬局に依頼をすれば、どのような薬を飲んでいて・どのような調剤がされていたという細かい情報も出すことができるため、ぜひ活用してほしい。

【その他意見】

(委員)

・各地域包括支援センターの地域課題の抽出というところでもでている内容だと思うが、入院・入所の場面において、身寄りのない方の支援をするということが、増えているように感じている。いち居宅介護事業所、いち介護支援専門員だけではどのようにしていったらよいのか難しい。

医療機関との連携についても、どの場で話し合うことが適切かわからないが、介護支援専門員、介護事業所、医療機関、支援者との間で、情報共有や研修会のようなものができたら良いと思う。

(5) その他

(委員：薬剤師)

- ・薬剤師会としても何とか在宅医療に関わり、支援ができればと力を入れているところ。静岡県薬剤師会も静岡県から委託を受け、在宅医療推進の取り組みを行っている。薬剤師会の中に地域医療部という部署があり、三島市の薬剤師会の薬剤師がその委員を行っているため、紹介をさせていただきたい。

「薬剤師の在宅訪問」というパンフレットを配布したので参考にして欲しい。

地域にある薬局で在宅訪問を行っている薬局がいくつかある、県薬剤師会のホームページに在宅可能薬局というリストがあるため、何かあった時には声をかけていただきたい。

不織布の袋を配付したが、患者が自宅で薬がばらばらになりわからなくなってしまうなどという時に、袋に入れてかかりつけ薬局に持っていくと整理をしてくれるというようなサービスもあるので、ぜひ活用してもらいたい。

地域包括支援センターや訪問系のステーションにも顔を出してきたいと思っているため、よろしく願いしたい。

我々薬剤師をうまく活用してもらえればと思うので、よろしく願いします。

(7) 事務連絡

次回の会議、10月5日(水)午後1時から

場所は三島メディカルセンター医師研修室。地域ケア推進会議と合同開催の予定。